

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年9月13日(2012.9.13)

【公開番号】特開2012-20996(P2012-20996A)

【公開日】平成24年2月2日(2012.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2012-005

【出願番号】特願2011-149371(P2011-149371)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/22	(2006.01)
A 6 1 K	31/138	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	13/08	(2006.01)
A 6 1 P	15/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
C 0 7 K	14/575	(2006.01)
C 0 7 K	14/705	(2006.01)
C 1 2 N	5/09	(2010.01)

【F I】

A 6 1 K	37/32	Z N A
A 6 1 K	31/138	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	13/08	
A 6 1 P	15/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	43/00	1 2 1
C 1 2 N	15/00	A
C 1 2 Q	1/02	
C 0 7 K	14/575	
C 0 7 K	14/705	
C 1 2 N	5/00	2 0 2 U

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月26日(2012.7.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

129位のグリシンが置換されているヒトプロラクチン変異体を含む、乳癌治療剤。

【請求項2】

129位のグリシンがアルギニンに置換されているヒトプロラクチン変異体を含む、請求項1記載の乳癌治療剤。

【請求項3】

抗エストロゲン剤と組み合わせて用いられることを特徴とする、請求項1または2記載の乳癌治療剤。

【請求項4】

抗エストロゲン剤がタモキシフェンである、請求項1乃至3のいずれか一項記載の乳癌治療剤。

【請求項5】

129位のグリシンが置換されているヒトプロラクチン変異体を含む、プロラクチン受容体を発現する細胞において細胞アポトーシスを誘導するための組成物。

【請求項6】

129位のグリシンがアルギニンに置換されているヒトプロラクチン変異体を含む、請求項5記載の組成物。

【請求項7】

細胞がプロラクチン受容体を発現するように遺伝子操作されている、請求項5または6記載の組成物。

【請求項8】

(a) 129位のグリシンがアルギニンに置換されているヒトプロラクチン変異体の存在下で、プロラクチン受容体を発現する細胞に化合物を接触させる段階；

(b) 該細胞におけるアポトーシスのレベルを測定する段階；および

(c) (b)において得られたアポトーシスのレベルを該化合物の非存在下で得られたレベルと比較する段階

を含む、プロラクチン受容体活性を調節することができる化合物を同定する方法であって、(b)において得られたレベルが化合物の非存在下において得られたレベルと異なる場合、プロラクチン受容体活性を調節することができる化合物が同定される方法。

【請求項9】

化合物が細胞におけるアポトーシスのレベルを増加させる、請求項8記載の方法。

【請求項10】

化合物がプロラクチン受容体アンタゴニストの存在下で細胞におけるアポトーシスのレベルを減少させる、請求項8記載の方法。